

◆開催日時 平成27年3月29日（日）午後7：30～9：10

◆開催場所 東近江市役所 新館3階 318会議室

◆出席者

市民協働推進委員 深尾昌峰、福田純子、高頭勇次、太田裕子、楠神渉、佐子友彦、築山清美、荷宮将義、北井香、井尻久嗣、大橋正徳、板倉元
(欠席：小倉昌和、飛田重金、森田徳治)

事務局 まちづくり協働課 黄地、山口、浅田

◆傍聴人数 0人

◆議題

地域担当職員制度について

◆会議録

開会

【事務局より開会のあいさつ】

(委員長)

こんばんは。今、事務局からもありましたが年度末の休みの晩にということで、あまりないパターンなのですが、ある意味、我々らしいと思っています。今日は少し、フリーな議論をして頂きたい議題があります。後で事務局に説明をしてもらいますが、地域担当職員制度についてです。このテーマは東近江市にとって非常に大事な内容になるので、どういう形で進めていったらいいか、どういう制度だったらいいよねということを自由に議論ができたらと思います。今日の議論をベースに今後、少しずつでも進めていけたらと思います。今日は、その一歩となる議論かなと思います。本日もよろしくお願いします。これまでの経緯や資料の説明も含めて、事務局からお願いします。

(事務局) ※資料に基づき説明

【資料】地域担当職員について

第5回市民協働推進委員会でもコーディネートをする人を地域に配置する必要があるのではないかと意見が出ていた。また、東近江市市民協働推進計画にもそのような役割として地域担当職員が必要ではないかと制度を検討することが定められている。そのため、今回は地域担当職員制度について議論する。

○市民協働推進計画に定められた経緯

○他市の地域担当職員制度の事例

米原市、豊中市の事例

○東近江市に必要な地域担当職員制度は？地域担当職員は？

(委員長)

今ありましたように、市民協働推進計画に検討すると定められてある。ただ、どういう制度な

のか、どういう人なのかについては詰まっています。今回、色々なアイデアを出しながら、こんな制度いいよね、こんな人だったらいいよねというように多角的に検討して行って、本当に設置するのならこうであって欲しいということをお話していただけたらと思います。計画には4つ程イメージとして役割が書いてありますが、1つ目の「地域における会議で、市の施策等についての説明と合意形成」と3つ目「地域の意見・要望受付と行政の担当課への取次」といったような部分が濃い担当職員なら面白くないですし、単に住民のガス抜きの存在としてでは、あまり意味がないと思うわけですね。何の解決にもならないですよ。もしかしたらそういう役割の人もいるかもしれませんが、せっかく設置するのだったら、これまで議論してきたような市民協働だったり、地域づくりが進む方がいいよねということや、先ほどの豊中の事例のように、段階論があってもいいですよ。最初はこんな感じだけど、最終的にこういう目標のところまで持っていきたいというのがあってもいいかもしれません。また、100%公務員の人が必要がないかもしれません。半分くらい公務員の身分で半分くらいの給料で地域担当をして、残り半分は他の仕事をして生計を立てているとかのパターンがあってもいいかもしれません。そういうのも含めて、どういう人がどういう役割を果たせば、担当職員として生きてくるのかを議論してもらえたらと思います。

まちづくり協議会としての意見もあるでしょうし、この委員会は色々な立場の人がいるので、それぞれの立場から見える意見を言ってもらいたいと思います。もしかしたら福祉の分野からの意見だと民生委員さんと地域担当職員さんでこのような地域課題の狭間を埋めることができるよねというような意見もあるかもしれません。専門職のような役割は期待できないかもしれませんが、重ね合わせることで効果は大きく出るかもしれません。多様なご意見を頂いて、この制度が良いものになるようにしていければと思います。本日は論点出しを行って、実質的な議論はそれを基に市と進めていけたらと思います。

2つのグループに分かれて意見を出し合っていて欲しいと思います。整理する必要はありません。後でどんな意見が出たか、共有できたらと思います。

(事務局)

少し歴史的な話をしておきますが、10年前に合併しましたが、合併前の役場では規模的にある意味、柔軟に動いていたのかもしれませんが。合併後、同じようには難しく、水臭くなったという声も聞くことがあります。また、まちづくり協議会の方からも、以前の役場の職員のようにもっと地域の活動に参加して欲しいという声もあります。

合併後、4、5年はまちづくり協議会を立ち上げるにあたって、各地区に担当職員を置きました。支所にも担当職員がいました。まちづくり協議会を設立する目的で担当職員がいたのですが、その後、各地区にまちづくり協議会が設立され、どういう状況がおこったかという、市の職員がまちづくり協議会の事務を代わりにするということがおこりました。広報を作ったり、会計をしたりです。そのため、しばらくしてその制度がなくなり、職員を引き上げ、まちづくり協議会について言えば現在のような支援体制となっています。

こういう状況の中で、例えばですがまちづくり協議会では各地区のまちづくり計画を見直すという時期にきています。しかし、どのように進めていったらいいかわからないということで、行政に協力を求めている声もよく聞きます。協働で取り組みを進め、市の施策も知ってもらいながら良い計画にしてもらえたらなということで、今、そのような支援のできる担当職員を求めている地区が多いということも含めて議論をしてもらえたらなと思います。

(委員長)

歴史的な状況、よくわかりました。皆さん、議論をするにあたって質問はありますか。

(委員)

歴史的な背景もよくわかりました。地域担当職員の話は大事だと思っています。今日の議論ですが、まちづくり協議会にこだわらないということでもよろしいですか。大きな風呂敷を広げる感じですか。

(委員長)

はい、本日は大きな範囲の中で議論をしてください。それぞれの人の背景も含めて、どのような意見が出てくるのかわからないので、前提条件で議論を狭めたくないの、前提条件はなしということをお願いします。制度設計は色んな意見が出てからでいいと思います。

それでは議論をはじめたいと思います。

【グループワーク】

※2グループに分かれて

テーマ：東近江市に必要な地域担当職員制度は？地域担当職員は？

ワークショップ①

「どのような制度（仕組み）が求められるか？求める役割は？」

ワークショップ②

「どのような人物が求められるか？求める職員像は？」

※意見交換の内容は5ページ以降

※ワークショップ終了後、各グループで出た意見を共有

(委員長)

各グループの意見を聞かせてもらって、大きなイメージの違いはないのかなと思います。ただ、細かいところでどういうひとなのか、どちらかが良いということにはならないですね。例えば、若い人がいいのか、経験者がいいのか。若い人の方が、行政的には若い内に地域でのことを皮膚感覚として感じて将来に活かせるような職員の育成になるし、地域の方としても若い人のパワーや視点をもたらえるという部分もあります。また、経験を積んだ人の方が、地域としたらこの人に言えば話が早いや調整能力も持っているからいいということもあるし、行政としても地域の課題を捉えるということやリーダーの育成にもつながるという部分もあります。どちらがいいのかなんて言えませんし、どこに重きを置くかにもよりますよね。また、組み合わせると言った意見もありましたが、そういう方法もあります。多様な意見が出て面白かったです。

片方の班で出ていましたが、昔の議員さんのような調整能力を持った人、これも突き止めていくと議員さんとの関係というところにもなってきます。本質的に土着性をもっている地域とそうでない地域によるのかもしれませんが、昔の議員さんというキーワードから見えてくる地域担当職員に求められる要素もあるかもしれませんね。政治的な部分を抜いて、面倒見の良い、地域の声を吸い上げ、地域のことを真剣に考え、つないでいくというところではイメージのしやすい言葉だなと思います。

また、ラウンドテーブルの話もありました。要望の700件をどうようにつないだり、こなし

ていくのかではなく、その要望が出てくる背景を皆で話し合おうというものです。市民からの要望に応えようというのではなく、背景や原因を探るために、皆で話し合う機会を作りましょうというのは印象深かったです。そのためにはファシリテーターが必要だねというのもありました。

また、中立性というキーワードもあります。地元に行くのか、そうでないのかというところや、行政職員だけが地域担当職員でなくてもいいよねということもありました。中間支援組織のまちづくりネット東近江のような立ち位置も大事だねという話もありました。色んな人材像がありました。中立性という言葉難しいですね。

事務局からもすぐに決めるような話ではないということですし、市の方でも検討していかれるでしょうし、またこのテーマで話すことができたらと思います。言い足りないことがありましたら、事務局に言って頂けたらと思います。事務局は整理をしておいてください。

それでは今日の議論は終了としたいと思います。

【事務連絡】

※事務局より事務連絡

【次回の開催日は、5月12日（火）19時30分から】

※閉会

ワークショップ①、ワークショップ②で出た意見

- ・地域について一緒に考え、連携できる制度であり人。
- ・各地区でしている良い事業などを、市全体に発信し、広げることのできる人。
- ・既に社会福祉協議会の方が地区担当としているので、連携する必要がある。
- ・専門的な知識を持った人。
- ・地域へのアドバイザーであり、パイプ役となる役割。
- ・住民主導で進める時にアドバイスをくれる人。
- ・団体をサポートできる役割。
- ・他の地域の情報も知ることのできる制度になればいい。
- ・他の地域の課題も事例も教えてくれる人。
- ・色んなネットワークを持っていて、地域の人材を紹介できるような人であり制度。
- ・行政のことも社協のことも色々知っていて、地域の事を考えられる人。
- ・地域でも市役所内でも横断的に動くことができ、コーディネートできる人であり制度。
- ・市の職員にこだわらなくても、地域にそういう役割の人がいればいい。
- ・市全体を見渡せる人。
- ・地域担当職員はスキルがいる。個人のスキルに頼るのではなく、高め合える仕組みが必要。
- ・小さな課題を吸い上げて、行政課題にできるような人であり制度。
- ・ある意味、昔の議員の方のような調整能力。
- ・地域の課題等を吸い上げ、発信し、話合ったこと等を地域に持って帰る人。
- ・色んな部署の人がなった方が幅が広がる。
- ・若い人が担当職員になり、長い目で地域に関われる方がいい。
- ・外部に地域に入る人を委託してもいい。
- ・単年度ではなく、複数年でないと地域のことはわからない。
- ・人によって変わるような仕組みではいけない。質が保てるような仕組み。
- ・地域の窓口となるような人（窓口の一本化）。
- ・地域担当職員の拠点はコミセン及び支所。
- ・民生委員との連携は必要。
- ・複雑な課題に対応できるプロのような職員。
- ・地域担当職員は仕事として情報収集する時間を持つことができる。
- ・分野を超えて関われる権限。
- ・意識の高い人、意欲のある人がなるべき。
- ・東近江市の中間支援組織であるNPO法人まちづくりネット東近江のような立ち位置
- ・フットワークの軽い人。
- ・地域に入り、信頼を得るには腰を据えてする必要がある。
- ・1人ではなく、チームですべきである。
- ・本人が希望してなることのできる仕組み。
- ・地区担当とするより、市全体として地区をサポートする仕組みでいいかも。内容に応じて、専門の人を派遣。

ワークショップ①、ワークショップ②で出た意見

- ・コミセンの職員もだが、ボランティア意識がないと務まらない。
- ・プロジェクト単位で地域に入るのではなく、日常的に地域を知る仕組みにした方がいい。
→その結果、地域でプロジェクト化されるのがいいのでは。
- ・職員の人材育成にもつながるものにできれば。
- ・地域担当職員の庁内ネットワークができるかも。
- ・顔を見て話しやすい関係につながるような仕組み。
- ・浅く広くでもいいので地域を知ってもらう仕組みでもいい。
- ・若い人が地域に出ると地域も元気になる。
- ・自分の住んでいる地域だと割り切れない可能性もある（中立のコーディネートは難しい）。
- ・地域担当職員は各地区の政策決定のプロセスに参加するというミッションに統一すべき。
- ・職員が地元の会合に参加⇔第三者の方がいい・・・立ち位置としてどちらがいいのか。
- ・自分で手を挙げてなることができるほうがいい。
- ・ファシリテーションの技術が必要で、総合的な力が必要。
- ・人に頼れる聞き上手な人 → シャベリやすい人。
- ・3年交代くらいにして、地域のことを考えてくれる人がどんどん増えていくといい。
- ・会議に参加？定期的にくる？
- ・まちづくりが主でない職場の人、他の部署の上司と組むなど考慮が必要。
- ・複数人（リーダー、中堅、若手）でチームをつくる必要がある。
- ・本業と担当職員の仕事を理解する。
- ・受け入れる側のスタンス。バリエーションが色々あっていい。月2回お茶だけでも・・・
- ・受け入れ側にも研修が必要。
- ・ミッションを明確に。
- ・まちの将来を話すことが大事（まちづくりは行政だけでも市民だけでもない）。
- ・顔をつないでくれる人が重要。
- ・市政要望が700件の背景を知る必要がある。
- ・地区のラウンドテーブルができれば市に要望しなくても解決策があるかも。
- ・第三者のファシリテーションが必要。
- ・内容に応じて市の各部署から出てきてラウンドテーブルができる関係性。